

## 昭和大学薬学部 第31回薬-学連携プログラム

「通院・在宅での薬物療法を支援するために」～薬局実習における「服薬指導準備シート」を用いた学生指導のポイント～

日時：2015年6月28日 日曜日 9:00～13:00

場所：昭和大学旗の台キャンパス4号館5階500号室

地域医療において薬物療法を支援するためには、患者の問題点や治療の全体像を把握するとともに、患者に質問・説明すべき内容について、薬学的知見に基づき準備しておくことが重要と考えます。本プログラムでは、薬学的知見に基づいた服薬指導を学生が実践できるようにするためのツールとして、本学薬局実習において利用している「服薬指導準備シート」を取り上げました。今回、薬局薬剤師の先生方23名が参加され、「服薬指導準備シート」を用いた学生指導について活発な討論が行われました。

まず初めに、昭和大学薬学部薬学部長 山元俊憲先生より開会のあいさつに続いて、昭和大学薬局実習で利用している「服薬指導準備シート」の概要について説明がありました。本プログラムを通して、「服薬指導準備シート」の趣旨をご理解いただき、薬学的知見に基づく患者指導、また、それが出来る薬剤師の育成につなげていきたい、との話がありました。

続いて、本日の症例疾患である過活動膀胱について、「過活動膀胱診療ガイドライン」の概要が説明され、参加者全員でその内容を共有しました。



セッション1：「服薬指導準備シート」を用いて頭の中で考えていることを整理して改善点を考えよう

セッション2：「服薬指導準備シート」を薬局実習に生かそう



セッション1では、「服薬指導準備シート」の理解を深めるため、「服薬指導準備シート」の学生記載例について、グループに分かれて討論しました。

セッション2では、まず「服薬指導準備シート」の改善ポイントを確認し、続いて、「学生がより良いシートを作れるようにするには?」、「服薬指導の実践につなげるためには?」、さらに、「薬局実習での活用方法」について、各グループで活発な討論が行われました。



発表・総合討論では、薬局実習における「服薬指導準備シート」を用いた学生指導について、各グループで討論した内容が発表されました。調査の指導法、患者症例選択、服薬指導実践へのつなげ方を始め、実習全体を通した活用方法など、様々な意見が出されました。

質疑応答・総合討論では、「服薬指導準備シート」作成時の学生とのコミュニケーション、服薬指導実践へのつなげ方の具体策、「薬局薬剤師による処方提案」を行う環境作りなどについて取り上げられました。また、薬局ならではの患者の薬物治療への関わり方についてのご意見がありました。



最後に、昭和大学薬学部実務実習委員長 加藤裕久先生より閉会のあいさつが行われました。本日の活発な議論への感謝と共に、学生のモチベーションアップにも繋がるので、実習期間中に「服薬指導準備シート」を用いた薬局内での症例検討会もぜひご検討いただきたい、との話がありました。



本プログラムを終えて：

参加された先生方にご記入いただいたアンケート結果では、本プログラムへのご意見として、95%の先生方に「とても満足(52%)」「満足(43%)」とご回答いただき、大変好評のうちに終了することが出来ました。また、全員の参加者より、「服薬指導準備シート」は学生が薬物治療を考えるために有用である（「かなり有用(70%)」「有用(30%)」）とのご評価を頂きました。

昭和大学薬学部薬-学連携プログラムでは、今後も、将来の地域医療を担う薬剤師の育成のために、薬局薬剤師の先生方と大学が連携して取り組んでいけるプログラムを企画していきたいと思っております。

以上